



岸良海岸で共同実験 九州大学と福岡大学による小型ハイブリッドロケット打上げ実験

3月15日、宇宙教育の拠点化を目指す肝付町で九州大学と福岡大学の学生らによる小型ハイブリッドロケットの共同打上げ実験が行われました。

実験に先立ち、前日には岸良地区の住民と学生たちによる海岸清掃と地域交流会が開催されました。交流会では、学生たちが自分たちの機体に込めた想いや宇宙への情熱を語り、住民が温かなエールを送るひと時となり、打上げ前から「地域の応援」という力強い追い風が吹いていました。

迎えた打上げ当日の朝。最初に打上げられたのは、九州大学のチーム「PLANET-Q」。真っ赤な機体は力強いエンジン音とともに大空へ駆け上がりました。約2時間後には、福岡大学のチーム「FUROCK」が、鮮やかなトリコロールカラーの機体で美しい弧を描きました。

実験後、両大学のリーダーは「肝付町で打上げを行えたこと自体が成功と考えています。目標には届きませんでしたが、その原因を解明するのが楽しみです」と、晴れやかな表情で語ってくれました。

全ての実験を終えた後、学生たちは使用した海岸の清掃を丁寧に行いました。打上げの余韻が残る中、波打ち際のゴミを拾い集める彼らの姿は、場所を貸してくれた地域への深い感謝の表れでした。交流会から始まったこの二日間。岸良の地には、宇宙を目指す情熱とともに、地域と若者が結んだ確かな絆が生まれていました。

